ボーリング柱状図

調　査　名　平成２６年度　公営住宅　六高住宅新築工事地質調査委託

事業・工事名

ボーリングNo	

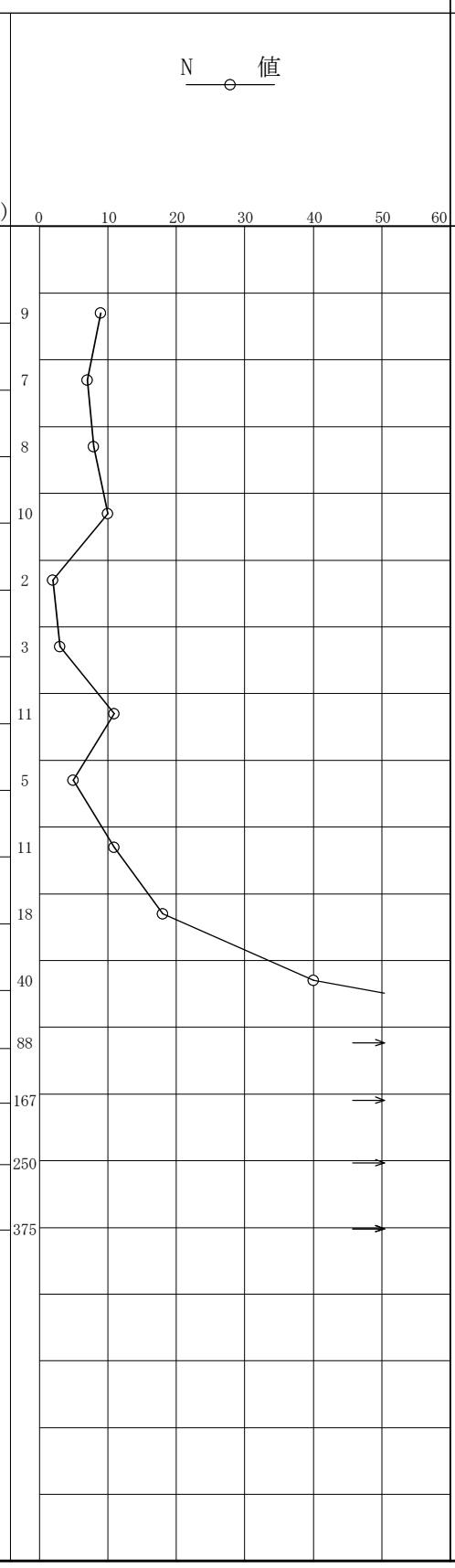
シートNo

ボーリング名	Ｎｏ．４	調査位置	福岡市博多区吉塚七丁目			北緯	
発注機関	福岡市　住宅都市局　住宅部　住宅建設課			調査期間	平成 26年 8月 28日 ～ 26年 8月 29日	東経	
調査業者名	朝倉地質工業株式会社 電話（092-474-6543）	主任技師	時川　真一	現場代理人	高野　宏二	コア鑑定者	高野　宏二	ボーリング責任者	高野　和貴
孔口標高	+0.20m	角度	180°上 90° 下0°	方向	北0° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配	鉛直90° 水平0°	使用機種	試錐機：東邦Ｄｏ－Ｄ　ハンマー落下用具：コーンプーリー
総掘進長	15.00m								エンジン：ヤンマーＮＦＤ－１０　ポンプ：東邦ＢＧ－３Ｃ」

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
1	-1.25	1.45	1.45		埋土	暗灰			0.20mまでアスファルト及び砕石。1.00mまで試掘。0.60mまでコンクリート片（最大100mm）を多く介在。以下、1.45mまで粘土混じり砂状を呈する。	
2	-1.60	0.35	1.80		シルト混じり砂	黄褐			細～中粒砂主体。低密度状態を呈する。φ10mm以下の細礫混入。GL-2.30mに自然水位存在する。含水量多く孔壁の崩壊見られる。	8/28 2.30
3										
4	-4.50	2.90	4.70		砂	淡黄灰			細粒砂を主体とする。砂とシルトを互層状。含水量多く孔壁の崩壊見られる。	
5					シルト混じり砂	暗灰			部分的に粘性土を多く介在。細粒砂を主体とする。	
6										
7	-7.10	2.60	7.30							
8					礫混じり砂	暗灰～暗黄灰			上層部はφ２～10mm大の礫を混入する。細粒砂を主体とする。部分的に粘性土を多く介在。下層部は含水量多く孔壁の崩壊見られる。	
9										
10	-10.50	3.40	10.70							
11					砂礫	暗黄灰			φ２～30mm大の礫を多く介在。部分的に粘性土を混入する。	
12	-11.90	1.40	12.10							
13					花崗岩風化土	暗緑灰			風化作用の進行により砂質土状（マサ土）を呈する。部分的にφ２～10mm大の風化残痕礫（石英）を混入する。基岩組織明瞭。	
14										
15	-14.80	2.90	15.00							
16										
17										
18										
19										

標準貫入試験

深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	3	2	4	9/30	9
1.45–2.15	2	3	2	7/30	7
2.45–3.15	3	3	2	8/30	8
3.45–4.15	3	4	3	10/30	10
4.45–5.15	1/15	1/15		2/30	2
5.45–6.15	1	1	1	3/30	3
6.45–7.15	3	3	5	11/30	11
7.45–8.15	2	1	2	5/30	5
8.45–9.15	3	3	5	11/30	11
9.45–10.15	6	6	6	18/30	18
10.45–11.15	13	12	15	40/30	40
11.45–12.15	25	25/7		50/17	88
12.32–13.05	50/9			50/9	167
13.14–14.00	50/6			50/6	250
14.06–15.00	50/4			50/4	375
15.04					



原位置試験 深度(m)	試験名および結果

試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
				8/28
				8/29